置農PTA会報

令和６年２月29日発行
第116号

〒999-0121 川西町大字上小松3723 TEL（0238)42-2101 FAX（0238)42-2103 URL http://www.okitama-ah.ed.jp/

●PTA会長・校長挨拶 … P2 ●収穫感謝祭・置農祭 … P3 ●第1学年紹介 … P4 ●第2学年紹介 … P5
●第3学年紹介 … P6 ～7 ●学科トピックス・進路状況 … P8

PTA活動を振り返って

PTA会長　木村　茂

今年度PTA会長を務めさせていただいております木村です。会員の皆様には日頃よりPTA活動に対するご理解とご協力をいただき感謝を申し上げます。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で、PTA各種事業の見送りや規模縮小での開催、さらには学校行事や各種大会・イベントなどもこれまでのように開催できず、とても残念な思いをしました。

しかし、今年度からは新型コロナウイルス感染症による活動制限は収束に向かい、新たな生活様式で社会が動き出している中、ほとんど活動のなかったPTAの事業も4年ぶりに動き出しました。年度初めのPTA総会は対面での開催となり、マナーアップ運動の実施や置農祭での模擬店参加など多くの事業を実施しました。特に置農祭では生徒の皆さんのパワーを感じることができました。また、多くの地域の皆さんから足を運んでいただき、置農の魅力を発信することができました。本当に地域から求められている学校なんだなということを改めて感じたところでした。久しぶりの事業実施で手探りしながらの活動になりましたが、会員の皆様および先生方と共に、良い方法を検討しながら無事終えることができたと感じておりますし、良い形で次年度へつなぐことができたのではないかと総括しております。

とにかくこの三年間振り返ってみると思い出されるのは「コロナ禍」であったということです。今では5類移行となり、足踏みしていた社会全体が大きく前進している最中だと思います。社会がより一層変化し、多様化していく中で、生徒の皆さんには挑戦していく心を持って活躍の場を広げていただきたいと願っております。コロナ禍を経験した皆さんだからこそ、何事にもプラス思考で行動、そして挑戦していくことができるはずです。これからもPTAの私たちは、皆さんの高校生活が充実したものになりますよう、全力でサポートをさせていただきます。生徒の皆さんの今後益々のご活躍を期待しております！

コロナ禍を経て見えてきたもの

校長　平田　忠宏

置賜農業高等学校PTA保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に対しご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

今年は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したものの、夏は記録的な猛暑、秋以降はインフルエンザ等の感染症が流行するなど、学校教育活動にも大きな影響があった年でした。中でもコロナの5類移行による制限の緩和は生徒の活動を盛り上げ、昨年にも増して様々な生徒の活躍が見られました。

農業学習等では農業クラブ活動で東北連盟大会や全国大会熊本大会への生徒の出場、県プロジェクト発表会ではⅡ類、Ⅲ類で最優秀賞を受賞しました。遺伝子組み換え技術を活用したダリアの品種改良の研究ではバイテク普及会から最優秀賞をいただき、全国農業高校お米甲子園では金賞、高校生アイディアコンテストでは最優秀賞を受賞しました。また県主催の台湾への交流学習団には本校から2名の生徒が参加し、台湾の学生との交流を深めてきました。農業学習等を通して置農生が大きく活躍した年となりました。部活動ではホッケー部がインターハイベスト16、演劇部は東北大会に2年連続して出場し、春季全国高校演劇研究大会への出場権を獲得するなど、素晴らしい結果を残してくれました。

また学校行事では、コロナ5類移行後はじめての置農祭が4年ぶりに制限のないなかで開催されました。一般公開では模擬店の出店や農産物販売、演劇部・吹奏楽部の発表などに加え、PTAからも「ふるまい餅」を提供していただきました。来場者はコロナ禍前を凌ぐ400人を超え、充実した内容となりました。

コロナ禍を経験し、制限された学校の教育活動の中で、生徒たちは自ら考え、目標をもって行動することを学んでくれたのだと思います。来年度から本校は食料生産経営科と農業資源活用科の2学科となりますが、今年度の活躍を引き継いで、来年度につなげて欲しいと思います。

今後も地域を支える人材を育成する学校として、保護者の皆様とともに教職員一丸となって教育活動に取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

収穫感謝祭・置農祭

PTA餅振る舞い

PTA副会長　片桐雅視

4年ぶりの置農祭通常開催にともなって、PTAによる餅振る舞いを実施しました。

例年模擬店出店とのことで、役員一同で何の模擬店がよいか思案しました。幸い農業高校なので道具はほとんど揃っているので、焼きそば、焼き鳥、芋煮と、お祭りのお約束メニューが出されましたが、生徒達が取り組みそうなものは残して、お餅が簡単でいいかなということで決定。ただ4年ぶりの開催のため何食準備するのか悩みました。

当日は前日から小雨の予報で雨天の設営となりましたが、提供中は天気ももって幸いでした。大塚もち加工センターから、つき入れ生餅、蒸かし、ずんだ餡、納豆、雑煮つゆを配送いただき、協力いただいたPTA役員約10名で分担して提供しました。

今回は、2学年の二宮さんが餅切り機を持ち込んで下さり餅の切り分けもスムーズであっという間に一斗の餅を振る舞うことができました。私も何十年ぶりに臼と杵で三升ばかり餅つきしました。役員と先生方で楽しかったです。生徒にもついて欲しかったのですが、なかなかつかまらず残念。餅が無くなってからも、ずんだ餡だけ、雑煮汁にねぎトッピングと提供しきれいに完食となりました。

最後に、ご協力いただいた役員、先生方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

部会長としての抱負

PTA一学年部会長　奥山　洋之

この度、部会長を仰せつかりました奥山です。私自身OBという事もあり、何かご協力出来ればと思いお引き受けしました。入学から今まで学校行事、部活動等子供達は活き活きと学校生活を送っているようで、大変微笑ましく思っております。コロナ禍も徐々に緩和されておりますが、以前とは違い新たな生活を築き上げていかなければなりません。

PTA活動も今までとは違ったり、戸惑う事もあるかと思いますが、保護者の皆様方のご理解とご協力をお願い致します。なかなか学年全体で集まり、皆様と顔を合わせる事が出来ておりませんが、子供の為、一致団結して盛り上げていきましょう。三年間よろしくお願い致します。

一学年紹介

一学年主任　上野　真二

私たち1学年団は今年度の学年目標を「感謝の気持ちを持ち、熱意と誠意を持った人間を目指そう」としました。生徒たちは植物や畜産動物、自然などのさまざまな「命」と実際に触れ合うなかでその大切さと尊さを学び、またその学習の過程では、保護者の皆さまをはじめ、同じ学び舎で過ごす仲間や先生方、地域の方々からの支援やサポートを受けています。私たちは、普段の学習活動を支えてくれている全ての「こと、人」に「感謝」の気持ちを持ち、多様な価値観や考え方をお互いに認め合い、支えあえる学年を目指しています。

今年度は、新型コロナが5類感染症に移行され、さまざまな行事がコロナ禍前の形で開催できるようになったものの、実態としては未だに新型コロナやインフルエンザ、感染性胃腸炎等の感染拡大が懸念され、各々が感染対策を継続しながら各種行事に参加することになりました。そうしたなかで、1学年の生徒たちは、慣れない高校での授業や行事、部活動、委員会活動に加えて、新しい人間関係、友達との距離感などに戸惑いながらも一生懸命に学校生活を送っています。置農祭やクラスマッチでは、準備期間から本番当日までクラスが団結し、互いに協力しながら臨もうとする姿勢が多くの場面でみられました。

来年度は学校の中心・中核となれる学年を目指し、より大人へと成長できる一年となるように、熱意と誠意を持った学校生活を送りましょう！

一学年代表生徒挨拶

佐藤　悠河

置賜農業高校に入学して、約9ヶ月経ちました。高校生活にも慣れて、毎日充実した日々を送っていますが、高校での時間は思ったよりも早く過ぎることを実感しました。

自分は三月からホッケー部に参加し、ラントレやウエイトなどのきつい練習もこれまで頑張ってきました。ときには、やめたくなるような辛い時期もありましたが、乗り越えてここまで来れました。それは、いつも支えてくれる家族と、友達、部活の仲間のおかげです。特に家族には、感謝の気持ちを伝えたいです。大会や遠征が多くあり、一学年ながらも試合に出て、たくさんの経験を積めたことがうれしかったです。この経験を生かし、今年敵わなかった相手に勝てるように頑張りたいです。

学校行事では、クラスマッチと置農祭があり、クラスの団結力をより高めることができました。2学期にあったクラスマッチは、一学期よりもまとまることで、総合四位という結果を残すことができました。三年生のフィジカルにも負けずに、頑張りました。

置農祭は、模擬店の担当になり、いも煮をみんなで作ったのが楽しかったです。担当の先生と材料の下見に行ったのもいい思い出になりました。

残りの高校生活を有意義に過ごすために、小さな目標から立て、部活や勉強を頑張っていきたいです。

第1学年紹介

第２学年紹介

学校行事を通じて

PTA二学年部会長　二宮　弘明

入学からこの間、子どもたちは置農の伝統を体験・実践することにより大きく成長したものと思われます。

令和五年度は、新型コロナウィルスの感染症法上の位置づけが二類から五類に引き下げられたことにより、コロナ禍前と同等の行事を実施することが出来ました。中でも置農祭では数年ぶり（四年ぶり？）に一般公開となったことで、クラスごと創意工夫しながら協力しあい、達成感を味わったことでしょう。この間、学年部会長として活躍する機会が少なかったわけですが、当日、PTAとして実施しました模擬店（振る舞い餅）に協力出来たことに安堵しています。

さて、高校生活も残り一年余りとなり、いよいよ進路を決定し実現しなければならない大事な年を迎えます。そういった状況下でも子どもたちが楽しい学校生活と記憶に残る一年が送られますよう、先生方や保護者の皆様方からの一層のご協力をお願いいたします。

二学年紹介

二学年主任　中嶋　高彦

令和五年度の、密かなテーマは「精神的に大人になってもらうこと」を心に掲げてスタートしました。昨年度はかなり心の幼さが目に付く印象で終わりましたので、心の成長を促せたらとの思いからです。

さて、振り返りまして二学年は「緩み」の学年でもありますので、しっかりと引き締めなければいけないなと感じていました。しかし、これだというタイムリーな処方もないまま現在に至っております。昨年度の経験を活かし諸行事任せで何とかならないものかとやり過ごしてきました。

明らかに昨年度のバタバタ感はなくなりましたが、人としての成長はまだまだ足りないなと感じざるを得ません。また、人とのつながりや関係性を上手に構築していけないものかと、学年集会の度に話をしてきました。人は自分と同じではないのだということを心に留めながら、日常のちょっとした問題を自分たちで解決する術を、コミュニケーションを通して身に着けて欲しいのです。かくいう私もコミュ障ポイところがありますが、やはりコミュニケーションをとりながらお互いが納得いく落としどころを見つけられればよいわけです。自分の考えを押し付けるのではなく、相手の考えを完全拒否するのでもなく、ちょうどよいところを探してほしいのです。

さて、そうこうしているうちに、三学年が近づいてきています。自分の進路も目の前に迫ってきています。いろいろなことを考え、模索しながら進んでいかなければなりません。悩んでよいのだと思います。この時期に悩まない人なんていないのではないでしょうか。大いに躓きながら、悩んで答えを考えていってください。それが成長への第一歩です。

二年生で成長した事

食料環境科二年　近野吉之介

私の二年生の成長は、部活動での事です。

私は二年生になると同時にホッケー部の副キャプテンになりました。この競技は高校に入ってから始めたこともあり、副キャプテンになることが決まった時は、大変不安でした。そこで部活動をする上で自分の中で意識したことは、何事も自分から行動する事でした。一年生の時は先輩についていくことで精一杯でしたが、後輩もできたこの一年は、自ら行動する事を意識しました。その結果ホッケーに対する気持ちも変わってきました。練習の時も「誰よりもうまくなりたい」「他のチームに負けたくない」という気持ちがかなり強くなりました。その事によりチーム内でぶつかることもありました。しかし、大会前はチーム一丸となって試合に挑むことができました。

そんな中インターハイで一番勉強になった事はチームの和の大切さでした。大会前の公式練習での事、全員気持ちが入っておらず声もなく締りの悪い練習をしてしまったのです。このままではいけないと思い学年ごとに話し合いました。自分達が何を目指しているのか、個人としてどうなりたいのかを確認したのです。次の日の公式練習では声も出ていてよい練習をすることができました。試合当日は全員が素晴らしいプレーをして勝つことができました。もし、全員がばらばらだったならば勝てなかったと思います。チームがまとまる事は非常に大切なことだと学びました。

もう一つは県新人戦です。頼ってきた三年生がいない中でより自分がリードしていかなければという責任感が高まりました。中でも難しかったことは、練習の雰囲気作りです。チームの雰囲気を変えていくのは、とても大変でしたが、それも乗り越えて試合では勝利することができました。二年生で副キャプテンにしていただいたことは本当に私にとって良かったと思っています。チームを良くしようとして、自分も成長できた一年になりました。来年は更に成長していきたいと考えています。

一年間を振り返って

食料環境科三年　手塚　捷之

私は今年度、誠実な会長、親しみやすい会長、そして生徒を支える土台となる会長を意識し、生徒会活動に取り組んできました。残り少ない高校生活で理想とする生徒会長を目指して生徒会活動に取り組みたいと思います。

高校生活で一番の思い出は、置農祭です。今年度は生徒会を中心として一から企画を立案し、置農生・先生方に楽しんでもらいたい一心で取り組みました。生徒会の仲間と一緒に踊った「マツケンサンバ」と「唱」、高校で初めての模擬店、盛り上がった一般公開など本当に充実した素晴らしい時間にすることができました。

このように充実した一年間を過ごせたのは、自分を支えてくれた生徒会の仲間、全校生の皆さん、先生方のご指導のおかげです。本当にありがとうございました。私達三年生は、これからそれぞれの道に進みます。一人ひとりが立派な社会人になれるよう、精一杯精進致します。

たくましく羽ばたいて

三学年主任　宍戸香葉子

三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆様のご理解とご協力に支えられてこの時を迎えることができたことに心から感謝しております。ありがとうございました。コロナ禍で始まった高校生活も少しずつ制限が緩和し、三年次には最高学年としてすべての行事をこれまで通りの充実した形で実施することができました。これまで高校生活を共にした仲間との最高の思い出を作ることができた一年だったと思います。

今年の学年目標は、「自立・自律」～今、巣立つ時～でした。春を迎え晴れやかに「巣立つ」ため、学年生徒全員が進路希望の達成に向けて全力で取り組みま

年紹介

一生懸命に

生物生産科三年担任　庄司　典仁

生物生産科の皆さん、保護者の皆様、この度はご卒業おめでとうございます。三年間担任を務めさせていただきありがとうございました。

この三年間、日々の授業や部活動はもちろん、置農祭や、クラスマッチ、修学旅行、農業クラブ大会などを通して、皆さんの成長を感じてきました。普段は賑やかでも「やるべき時はやる」というメリハリを持って生活してくれ、各行事毎に発揮される皆さんの一生懸命さは色々な人を動かしてきました。また、その一生懸命さは進路活動でも発揮され、全員が早々に希望進路合格を決めてくれ、大変頼もしく感じました。

これまでの活動を通して、色々な性格や価値観を持つ人に出会い、気持ちの通じ合う人もいれば、そうでない人、また尊敬する人、憧れの人、この人みたいには絶対になりたくない等、出会った人に対して様々な感情を持ち、それぞれの立場や距離感で関係を続けてきたと思います。私は、その関係があったからこそ「心の成長」へと繋がったのだと思います。一生懸命に頑張る人は応援され、良い出会いが増えていくと思います。出会いによって良いことも悪いことも色々ありますが、皆さんが卒業後も、人との出会いやつながりを大切にし、幸多い人生を送ることができるよう心から願っています。

人生の糧

園芸福祉科三年担任　齋藤　明子

園芸福祉科の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。「卒業を迎える」ということは、簡単なようで簡単ではないし、当たり前なようで当たり前ではありません。三年間の高校生活、病気と闘うために入院した人、家庭内の悩みを抱えている人、友人とのトラブルで心を痛めた人、その他たくさんの壁をひとりひとりが乗り越えて今があります。三年間の高校生活を支えてくださったすべての人にまずは感謝の気持ちを伝えたいと思います。

私は二年次からこのクラスを担任させていただきました。た

した。今年は、四年制大学、短期大学、大学校、専門学校等の進学者二十一名、公務員四名、企業への就職者三十二名と全員がみごとに内定や合格を勝ち取ることができました。不安な気持ちに負けず、意気盛んにそれぞれの進路実現に向かって努力し、希望を叶えた一人ひとりの立派な姿は忘れることはできません。思い切り楽しんだ学校行事でも、仲間たちと協力する場面、仲間を思いやる言動をたくさん見せてくれました。最高の生徒たちです。さすがは置賜農業高校3年生。後輩たちが憧れる頼れる先輩になってくれましたね。

社会や進学先へ巣立つ皆さん、これからは自分の信じる未来を目指して、たくましく羽ばたいてください。皆さんのご活躍をお祈りいたします。

置農での経験

PTA三学年部会長　黒澤　淳

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。高校生活三年間、あっという間だったのではないでしょうか。

入学当初はコロナ禍からのスタートで、三年間どんな学校生活を送るのだろうかと思っておりましたが、制限が徐々に緩和され、そして解除となり、三年生にとっては最後の置農祭で四年ぶりに一般公開が行われるなど、今では通常の学校生活が送れていることを子ども達の成長と共に、うれしく感じております。

そしてこの三年間、さまざまな事に挑戦したり、努力したりといろんな事が思い出されてくると思います。もちろん、その思い出の中には苦しかった事や大変だった事、必ずしも楽しい事ばかりではなかったと思います。しかし、置農生だからこそ出来た経験は忘れないでいてほしいです。

最後に、校長先生はじめ教職員の皆様には、三年間子ども達を温かく見守りご指導いただいた事、心より感謝申し上げます。

第３学

った十人しかいないのに個性派ぞろいのこのクラス。更には八年ぶりの担任ということで、とても緊張感のあるスタートとなりました。振り返ってみると、生徒の成長と共に、担任も成長させていただいた二年間だったなと思います。

プロジェクト発表や課題研究で数々の賞をいただいた十人。少ない人数ながらクラスマッチで優勝したり、置農祭での教室装飾を極めたり、「諦める」ことをしなかったこのクラスの生徒たち。私はあなた方を心から誇りに思います。

これからそれぞれの道を歩んでいくことになります。人生の良い時も苦しい時も、それを共有したいと思える人がこのクラスの仲間であってほしい、そしてこれまでの3年間がこれからの人生の糧になってくれるものと信じて餞の言葉とさせていただきます。

与えられる人に

食料環境科三年担任　菅野　拓

食料環境科三十二名のみなさん、保護者の皆様、この度はご卒業おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症が蔓延し、マスクを着用しての入学式を昨日のことのように思い出されます。入学当初の写真や学級日誌を見返してみると、あどけなさが残るみなさんをとても懐かしく感じます。また、3年間で様々な経験をし、仲間たちと切磋琢磨しながら成長してきたのだなと寂しくもあり嬉しくもある複雑な感情になります。

新型コロナウイルス感染症により、多くの場面で制限を受ける生活が続きました。みなさんが描いていた高校生活とは違う生活だったのではないかと思います。しかし、このように制限された生活の中で他者を尊重し、一生懸命に活動するみなさんは、とても素晴らしく、輝いていました。そんな輝きをいつまでも忘れることなく輝き続けてください。そして、余裕がある時にはその輝きを誰かに分け与えてあげてください。現代は、予測不可能な時代を迎えています。そのような時代だからこそ、自らの手が届く人には優しく、手を差し伸べることが出来る人になってほしいと思います。もし、自分自身が辛くなったときには置農のことを思い出し、乗り越えてください。みなさんが自らの人生を切り拓き、幸せになることを期待しております。

学科トピックス

生物生産科トピックス

学科長　上野　真二

12月2日新潟県津南町で開催された「全国農業高校お米甲子園2023」において、作物部門で生産したアイガモ農法コシヒカリが「金賞」を受賞しました。これは全国の農業高校76校201点の出品の中から上位5校に与えられる賞で、作物部門ではこれまでに最高金賞1回、金賞2回、特別優秀賞9回の実績があります。今回の受賞で全国に置農米の品質の高さをさらにＰＲすることができました。また、第74回日本学校農業クラブ東北連盟大会岩手大会家畜審査競技会乳用牛の部で畜産部門2年の山口遥輝さんが優秀賞を受賞するなど、日頃の学習成果が存分に発揮されています。

園芸福祉科トピックス

学科長　齋藤　慎吾

先日、販売実習に出掛けた生徒の後ろを付いていくと、「寒い中よく頑張ってるねえ」とシクラメンを購入いただいている様子を目にしました。温かなお声掛けに感謝しつつ、「いえいえ寒くないです！ありがとうございます！」と笑顔で応答し、手際よく会計を済ませる生徒の姿に感心しておりました。生徒のみなさんの成長が見られる場面をこれからもたくさん見ていきたいと思ったところです。期待、してもいいですよね？

食料環境科トピックス

学科長　成澤　久美

環境系統では、サーベイコンテストで平板測量の部、ドローン測量の部に出場。置賜総合支庁、山形県建設業協会米沢支部、米沢地方森林組合や県立農林大学校と連携し、「生き物調査」「現場見学会」「チェーンソー講習会」等を実施。授業の学びを深めることができました。

食品系統では、農業廃棄物を活用したアップサイクルプロジェクトで野菜や果実の色素を抽出した商品開発への取組、子ども食堂やこども農園を活用した食農や食育活動のプロジェクトで自分たちの学習を活かしたお菓子やパンの提供、学校の圃場を活用した野菜作りが好評でした。これらの取組は、プロジェクト発表県大会やパナソニック教育財団での受賞に結び付きました。

これからできることは何か

進路指導部長　岩松　祐子

本格的に寒くなってきました。２０２３年は終わりましたが、２０２３年度の高校生活は、まだまだ残っています。この期間を短いと思ってただなんとなく過ごすか、先を見据えてやるべきことを考えて過ごすかで、春からの新年度が全く違うものになるかもしれません。

３年生のみなさんは、自分の将来や、自分は何がしたいのか、何に向いているのかについてこんなにもじっくりと考え、向き合ったことがなかったかもしれません。１年間を通して、それぞれの目標に向かって力を出し切れたのではないでしょうか。本当にお疲れ様でした。しかし、まだ終わったわけではありません。就職や進学で社会に出る前にどんな自分になっていたいか、なるべきなのか再度目標を持って残りの学校生活を送ってほしいと思います。

２年生のみなさん、もう進路活動が始まっています。４月に本格始動する時に、自分の進路希望先が決定しているよう３学期を使って家族や先生方と話をし、具体化させてください。目標の設定が早ければ早いほど、準備する時間を設けることができ、合格へと繋がっていきます。

１年生のみなさんは、ガイダンスや体験といった進路行事を通して、自分の将来について具体的に考えを深めていきましょう。学校生活を一つ一つ丁寧に送り、自ら興味のあることを体験したり、資格取得に挑戦したり、勉強に力を入れていきましょう。

令和五年度 進路決定先

【県内企業】

㈱アクセスよねざわ
朝日金属工業㈱
医療法人社団　緑愛会
上杉城史苑㈱上杉コーポレーション
ＳＷＳ東日本㈱山形工場（2）
㈱大岸製作所　山形工場
㈱加藤紙器
クアーズテック㈱小国事業所
後藤牧場
㈱蔵王カンパニー
㈱志乃屋
社会福祉法人　緑愛会
㈱たかはたファーム
㈱デーリイホープ
㈱ナウエル
ナノトップ㈱
西置賜ふるさと森林組合
日本通運㈱
㈲ニューヨーカー米沢
農事組合法人　成田農産
㈱藤倉設備
㈲藤橋鉄工所
㈱ホテルアルファーワン米沢
㈱山口製作所
㈱山田鶏卵　ウフウフカンパニー（2）
㈱米澤佐藤畜産

【県外企業】

㈱アイックス
㈱オートテクニックジャパン
第一貨物㈱
㈱三ッ和

【公務員】

川西町役場　（初級行政）
飯豊町役場　（初級行政）
山形県職員　（総合土木）
自衛隊　自衛官候補生（2）

【四年制大学】

開志専門職大学　情報学部　情報学科
仙台大学　体育学部　体育学科
つくば国際大学
　医療保健学部　保健栄養学科
東京農業大学
　国際食料情報学部　国際食農科学科
東京農業大学
　地域環境科学部　森林総合科学科
宮城学院女子大学
　生活科学部　食品栄養学科
東北農林専門職大学
　農林業経営学部　農業経営学科
東北芸術工科大学
　工芸デザイン学科

【大学校】

山形県立農林大学校
　野菜・花き経営学科
　野菜コース
　果樹経営学科
山形県立産業技術短期大学校
　知能電子システム科
大阪府立環境農林水産総合研究所
農業大学校
国立宮古海上技術短期大学校

【専門学校】

山形Ｖ．カレッジ
　ファッション・プロモート科
大原スポーツ公務員専門学校山形校
　文化・教養専門課程公務員学科
仙台ビューティアート専門学校
　美容科
にいがた製菓・調理専門学校
えぷろん
　製菓技術科
新潟調理師専門学校
　専門調理・製菓製パン・
　福祉調理科
山形歯科専門学校
　歯科衛生士科
山形調理師専門学校
　調理高度技術科
山形美容専門学校

こちら編集室

皆様からのご協力をいただきまして、本会報を無事に発行することが出来ました。

本号では、本校らしい実習や今までコロナで出来なかった学校行事等もあり今年は置農祭の一般公開もあり本校生徒も各クラス生き生きとしてきた一年間で、その活動を、この会報を見ていただき感じてもらえたら幸いです。

最後に編集に当たりお力添えを頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

広報部長　富樫ひとみ

★編集スタッフ

木村　茂・塚田　寿宏
片桐　雅視・黒澤　淳
二宮　弘明・奥山　洋之
富樫ひとみ・鈴木　雅典
橋本　順一・手塚　春貴
鈴木ひとみ・吉村　和寿

チャンネル登録待っています